思考力・判断力・表現力を育てる社会科授業

1　社会科で育成する思考力・判断力・表現力とは

「生きる力」の理念の実現に向けて，「基礎的・基本的な知識・技能の習得」とそれらの活用を通した「思考力・判断力・表現力等の育成」が求められている。昨年度の研究では，社会科だからこそ育成することが求められる思考力・判断力・表現力とは何か，どうすれば育てることができるのかについて実践を通して検討してきた。そして，社会科における思考力・判断力・表現力を「社会的事象や社会の問題を読み解く力」であり，それは児童・生徒が社会的事象や問題に対して「どのようになっているか」「なぜか」「どうしたらよいか」と問いかけ，その答えを追究していく活動の中で育つ力ととらえた（表１を参照）。以下，これらの力を育成するための教材構成や学習過程についてふれたい。

表１　社会科で育成する思考力・判断力・表現力

学習活動	活動の中で育っていく力
社会的事象や問題に対して「どのようになっているか（いつ，どこで，だれが，何を，どのように，どのような）」と問いかけ，資料等から必要な情報を読み取り，知ったことをまとめる	資料活用力，表現力
社会的事象や問題に対して「なぜか」「どうしてか」と問いかけ，事象相互の関係やその意味・意義を考えて，わかったことをまとめる	思考力，表現力
社会的事象や問題に対して「善いか，悪いか」「どうしたらよいか」「もっとよい方法はないか」と問い，問題解決の方法や方策を判断して，その結果をまとめる	判断力，表現力

2　教材構成－どのような教材を通して学習するのか－

思考力・判断力・表現力といった能力は，実際に児童・生徒が授業の中で思考し，判断し，その過程や結果を表現しなければ育たない力であろう。そのためには，子どもが「おかしい」「不思議だ」「変だ」「おもしろそうだ」と興味を持つ教材，「すごいな」と感動する教材，多様な問いが生まれる教材，一人ひとりの子どもにとって切実な問いが生まれる教材，調べ考えていくうちにさらなる問題が見つかる教材を開発していくことが求められる。思考力・判断力・表現力を育てる社会科授業には，次のような視点での教材化が必要であろう。

・人間が各時代や状況の中で直面した課題を，工夫・努力・協力しながら問題解決している姿の教材化
・グローバル化，情報化，環境悪化など社会の変化に伴って提起されている課題の教材化
・簡単には答えが出ないような課題（社会的な問題や論争的問題）の教材化

3　学習過程－学習内容をどのような過程で習得するか－

前述したように，思考力・判断力・表現力を育てる社会科授業には，「どのようになっているか」「なぜか」「どうしたらよいか」といった問いの成立が不可欠であり，またこれらの問題を児童・生徒自らが発見・追究・解決していくことが必要である。つまり，問題の発見から追求，解決に至る問題解決的な学習を行うことが必要であり，思考力・判断力・表現力を育てる社会科授業とは，問題解決力を育てる授業と言い換えることができる。問題解決力※は，「問題を見出す力」「問題を追究・解決する力」「実社会・実生活に参画する力」からなるものとしてとらえられる。このことから，問題を見出す場面（社会的事象から問題を発見し，学級全体で追究していく学習問題を考える），問題を追究・解決する場面（これらの問題の答えを児童・生徒が相互にかかわり合いながら追究・解決する），実社会・実生活に参画する場面（実社会・実生活の問題に目を向け，具体的な解決策を考え提案したり説得したりする）を大切にした学習過程の組織が必要であろう。

※国立教育政策研究所教育課程研究センター報告書「特定の課題に関する調査（社会）調査結果（小学校・中学校）」2008

（共同研究者：島根大学教育学部初等教育開発講座　加藤　寿朗）